

なぎなた部

平成24年度活動報告



なぎなたとは

- 薙刀（長刀）は、もともとは戦場における最も強力な武器。
- 鉄砲の伝来に伴い武器としての需要がなくなり、近世の薙刀術は、実技と口伝で伝授が行われた。武家の女子の教養。
- 近代では学校教育にも取り入れられていた。
- 第二次世界大戦後、武道の復活にともない、古流の薙刀術を基に新しいなぎなたが考案された。昭和33年文部省への教材申請の際にひらがな表記となる。
- 今日では、4年に一度の国際大会も開催されている。

活動目標

- 部をあげて競技力の向上を図り、出場する大会においては、演技競技の部、試合の部ともに上位入賞をめざす。
- 学外の関連団体・競技者との練習および情報交換を積極的に行う。
- なぎなたの修練となぎなた道の理念の追究を通して、競技力向上と人間形成を図り、日本のなぎなた界を代表する選手を養成する。

活動内容

- 外部から指導者を招き特別指導（強化練習）を受けるなど、部全体の競技力向上を図った。
- 学外での合宿・強化練習、関連団体・競技者との情報交換を積極的に行った。
- 鹿児島県内の小中高校生との稽古、指導により正しい知識と指導力を身につけ、それらの成果に基づいて、なぎなた競技の振興を図った。

主な活動結果

◎ 第51回全日本学生なぎなた選手権大会（8月）

団体試合の部	準優勝	川口・米田・和田・脇本・白川・千布
演技競技の部	ベスト8	米田 沙穂・玉城 茉林
個人試合の部	ベスト8	白川 未樹

◎ 九州なぎなた大会（8月）

個人試合（男子の部）	優勝	鍋嶋 大樹
（二段以下の部）	3位	脇本 愛
	ベスト4	千布 彩加
	ベスト8	玉城 茉林 柴田 真子

◎ 西日本学生なぎなた選手権大会（11月）

個人試合の部	ベスト8	川口 めぐみ
--------	------	--------

課題に対して

◎ なぎなた競技の指導者不在のなかで

- 部員全員で練習メニューを考える。
- 先輩後輩関係なくアドバイスし合う。
- 積極的に合宿や合同練習に参加する。
- 長期休暇中はそれぞれ地元の道場や高校で稽古に参加し、先生や先輩から指導を受ける。そして教わったことを大学に持ち帰り、部員で共有する。講師を招聘し、強化練習を実施する。

部員でアイデアを出し合い、一人一人がチームに積極的に参加すること、チームワークを強めることを意識した。

今後の目標

- なぎなたの修練となぎなた道の理念の追究を通して、競技力向上と人間形成を図り、日本のなぎなた界を代表する選手を養成する。
- 日本の伝統的身体運動文化に対する理解を深め、指導者として必要な科学的理論・知識、技術を修得し、なぎなた競技の発展に貢献する人材を育成する。

ご清聴ありがとうございました。

